

事務事業評価シート

評価実施年度：平成28年度

上位の施策名称	施策I-2-1 売れる農林水産品・加工品づくり
---------	----------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	農村整備課長 中藤 直孝	電話番号	0852-22-5176
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	ほ場整備事業		
目的	(1) 対象	担い手農家等	
	(2) 意図	担い手農家等の経営等農用地面積を拡大させるため、農地利用集積を促進し、安定した経営体として発展させる	
事業概要	・農業競争力強化基盤整備事業（担い手へ作業効率の良い農業生産基盤を提供するため、担い手等の経営規模を拡大する計画のある地区に対して、有利な国庫補助事業を利用して農業生産基盤を整備する） ・県営中山間地域総合整備事業【生産基盤整備】（中山間地域の持続的発展のため、整備要望のある条件不利地域の農業生産基盤に対して、有利な国庫補助事業を利用して整備する） ・農業競争力強化基盤整備事業（基盤整備事業費負担を軽減するため、生産基盤整備を実施する担い手農家等に対して、有利な国庫補助事業を利用して促進費を交付する）		

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 ほ場整備面積 式・定義 計画期間中に実施する経営体育成基盤整備事業及び中山間地域総合整備事業実施地区での累計	目標値		86.0	142.0	208.0	274.0	ha
		取組目標値						
		実績値	47.7					
		達成率	—	—	—	—	—	%
2	指標名 式・定義	目標値						
		取組目標値						
		実績値						
		達成率	—	—	—	—	—	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b)(千円)	1,792,929	2,743,390
うち一般財源(千円)	78,704	74,846

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	①順調に進んでおり課題がないため検討していない。
---------------------	--------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

・ほ場整備事業では、担い手となる生産者の経営改善と安定化に向けた支援として、生産基盤であるほ場の整備を実施しており、区画の拡大と水路の改良による営農経費削減を実現している。
・ほ場整備を契機に設立された営農組合では、大型機械での営農が展開されつつあり、先進地区では営農に係る労働時間が70%以上短縮、営農経費では60%近く軽減されている地区も存在する。また、平成27年度末の県内621の集落営農組織のうち約90%は、ほ場整備実施地区での設立であり、ほ場整備は安定した組織営農の基盤となっている。
・国土強靱化計画現況値25,461ha（H26）、H27末実績（累計）25,508.7ha、H28目標25,547ha、H29目標25,603ha、H30目標25,669ha、H31末目標値25,735ha

6. 成果があったこと（改善されたこと）

・成果参考指標としている、平成27年度末のほ場整備面積が目標値の33haを大幅に上回る47.7haを達成した。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
- ・成果参考指標としているH27年度ほ場整備面積は目標を上回ったが、H28年度は目標を下回る見込み
- ②困っている状況が発生している「原因」
- ・整備に必要な国庫補助金の配分が少ない状況
- ③原因を解消するための「課題」
- ・割当の少なかった国庫補助金の当初割当を補えるように、補正予算を確実に確保する

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・鳥根県のほ場整備率（区画面積30a以上）は、平成25年度実績の全国平均63.8%に対し46.1%であり、依然として整備が遅れた状況にある。整備の遅れは、農地集積の支障となり、農業就業人口の減少及び高齢化と相まって、耕作放棄地の発生原因となることから、さらに整備を進める必要がある。平成29年度以降の整備に必要な予算を、当初予算として確保できるように国に要望すると共に、整備コストの縮減に努める。

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。
・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）

--